

美術工芸人形作家
おおたき ひろこ
大滝 博子さん

山形市在住。独学で粘土人形制作を始め、後に本格的に人形作家として作品を作る。日本手工芸美術展覧会で金賞受賞のほか数々の賞を受賞。現在も精力的に作品を作り、全国各地で作品展を開催している。



きっかけは子供のたのしみおもちゃづくり
結婚当初、同居する義理の母から「ものづくりをするお嫁さんが理想だ」と言われ、好まれたいと思ひ、先ずは子どもに粘土で手づくりおもちゃを作っただけというのが始めた

卓越した技術を活かした
ものづくりを手がける
光り輝くおふたりに
お話をうかがいました。

【**輝く男女の**ものづくり】



ニットクリエイター
とがせ まこと
柁瀬 真さん

山形市生まれ。大学卒業後に専門学校でニットデザインを学んだ後、単身でイタリアへ渡り自身のニットブランドを立ち上げる。その後拠点を山形に移し、市内にアトリエである柁瀬商店をかまえニットクリエイターとして活躍中。

高校球児からニットクリエイターに
子どもの頃はスポーツ少年で、高校時代は野球に打ち込み甲子園にも行きました。大学卒業の頃、違う世界を探して好きな洋服を作りたいと思い、専門学校に通いニットに出会いました。そこでは、様々な技術を学び、卒業後

にイタリアでニットブランドを立ち上げ、東京のセレクトショップ等に作品を置いたりしていました。11年前から山形で活動しています。
若い頃は、山形があまり好きになれず都会に出て行ったのですが、色々なところを見て故郷に戻って来てみたら、すごく山形が魅力的なところだと気づいて、ここで活動したいと思いました。

山形という付加価値がブランドになる

山形に戻って以来、山辺町のニット工場から出る残糸を使い制作していますが、この糸に出会えたことで、何色もの糸を使ったオリジナルの編み方が出来るようになり、今の自分のスタイルになりました。



ニットで作った「山形コースター」

また、山形コースター（山形県の形をしたコースター）は、ここに住んでいるからこそ発想だと思っています。自分の感覚を表現していくには、東京ではなく、山形に腰を据えてものづくりをするこだわりが必要です。山形という付加価値が、ブランドの一部になり、そして作品の価値を高めてくれるものと信じています。

男性のためのニット教室

今年初めて「男編みやろっせ☆メンズだけの編み物教室」を企画しましたが、県内だけでなく関東圏からも多くの反響がありました。子供さんのために「帽子を編んであげたい」というお父さんの参加者もいたりして、とても好評でした。

ただの編み物教室ではなく、例えば「山形コースターを編む会」といった、面白いものをどんどん企画して、編み物を広めていければと思っています。

技術を高めて山形から発信

もともとスポーツ出身ですので、とにかく技術を高めたいと思っています。今の自分の技術でどこまで出来るのかを、試しながら絶えず研究しています。

技術を高めることで良い作品が生ま



で、自分のすべてを投影しているのではないかと思います。

人形を販売していた頃は、綺麗で可愛いものしか売れないので、売れるものしか作ることができませんでした。でも今は、自由に好きなものを作れる喜びがあり、気持ちが爆発するくらい色々な思いを込めて作っています。

様々な感想をもらったたびに、私の思いだけでなく、皆さんの感動からも人形が生まれてくるものだという実感があります。だから、人形は分身なのです。自分がいくつになっても子供を誕生させる喜びがあります。作品を残したいというよりも、作るのが面白くてどんどん挑戦しています。

そして、作品展は全国各地で開催し



タイトル「おう、きたが」

ています。地元ではなかなか機会がないのですが、11月に酒田市で開催予定です。

若い世代のみなさんへ

作品展には、子ども連れの方もたくさん来られます。子育て中のママたちは、ひとりで悩みを抱え込まないよう「子育てはゆるくゆるく」というメッセージを作品に書いたりもしています。

今は刺激を求めてしまう時代ですが、普通でよく当たり前の生活の中こそ、本当の幸せがあり、ちょっとしたことも、素直に感謝できることこそが、幸せに通じるのではないのでしょうか。

(編集協力員 鈴木 朋子)